

## 体育における没頭度尺度の開発

和歌山大学教授 村瀬浩二

和歌山大学教育学部附属小学校 則藤一起・松原千夏

海南市立内海小学校 南拓哉

岸和田市立桜台中学校 西浦奈々

### はじめに

近年重視された非認知スキル、なかでも勤勉性(無藤,2016)や自制心(Moffitt et al.,2011)、GRIT (Duckworth,2007)は将来の経済状況や健康状態に大きな影響を与えるとされる。これらは自身の欲求をコントロールし、目標に向かって努力し続けるよう誘う能力である。これらは単なる我慢強さを指す能力ではなく、自らを主体的に統制できる能力を示唆する。この主体的に努力し続ける時間を「没頭」とし、「楽しさ」として捉えた概念がフロー(チクセントミハイ,1996)である。フローは同様の環境にあっても、その環境に対する捉え方や、創造(想像)の過程により生まれるものである。また、これに関連して村瀬ら(2017)は体育における勤勉性を、主体的に挑戦を創造(想像)しながら活動に没頭し続ける能力とし、「楽しむ能力」とした。つまり、挑戦する過程で自らを創造(想像)し、それを実現しようと取り組み続ける過程が没頭であり、その過程を起こす能力を勤勉性と捉えた。この能力は体育科の目標である「生涯スポーツ実践への資質・能力」の中核と捉えられる。なぜなら運動・スポーツ場面において楽しむ能力は、成人期における仕事や家庭の忙しさの中でも人を没頭させる

ることによりそのスポーツ実践に対して価値を与え、継続的实践を支えるからである。

では、どのようにして勤勉性を育むことができるのだろうか。これは、主体的なフロー体験が誘因となり勤勉性を育むと想定できる。これは Deci(1995)のいう内発的動機づけを構成する3要素のひとつである自己決定であり、自己決定とそれによる達成感が、さらなる内発的動機づけを高めるのである。また、自己決定により活動に没頭(フロー体験)する過程は学習指導要領(2017)における主体的・対話的学びにも通じる道筋であろう(図1)。

そこで本研究は、体育勤勉性尺度(村瀬ら, 2017) 22問4因子を元に、小学生ならびに中学生を対象とした形成的運動没頭度尺度を作成する。これは毎授業測定するため、運動の没頭度に焦点化した6~9問程度の項目に集約・修正し、学習カードとして短時間で記入可能にする。この作成した質問紙のデータ収集と尺度化を行い、運動没頭度尺度を作成する。

また、単元を通じてこのアンケート用紙を収集することで、単元の進行状況とアンケートへの回答を照らし合わせ比較することができる。これにより、単元の評価や授業改善につなげることが可能である。

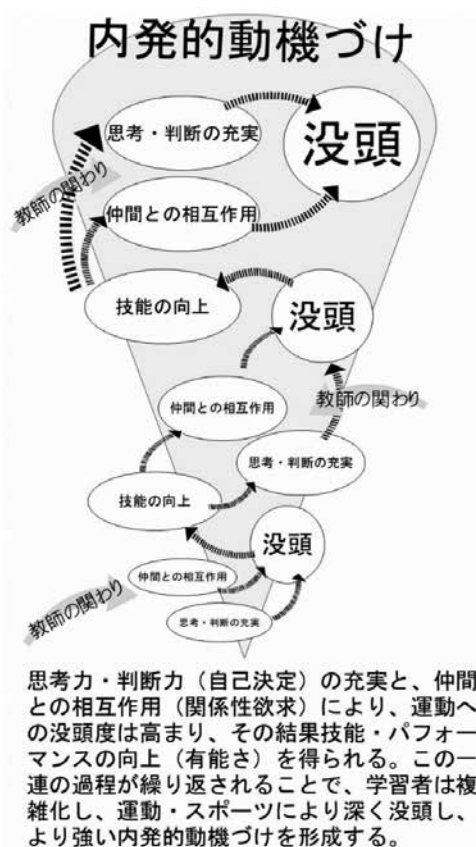


図1 没頭度の高まりのモデル図

## 方法

小学校3年生から6年生、中学校1～3年生を対象とした没頭度尺度の作成を行うために、下記の内容にて9問のアンケート用紙を作成した。

( ) 月 ( ) 日

( ) 年 ( ) 組

今日の体育授業の <u>こと</u> について教えてください。このアンケートは成績には関係ありませんので、 <u>答えにくい質問</u> には無理に <u>答えなくてもかまいません</u> 。次の質問の最初に「今日の体育の授業は」とつけて <u>答えて</u> ください。						
丸数字を1つだけぬりつぶしてください。(例③→●)						
仲間の <u>こと</u> を応援しました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
運動を失敗してもあきらめずに <u>つづ</u> けました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
運動で失敗したら別のやり方を試しました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
友だちと一緒に <u>喜び</u> ました	たくさんそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
運動に一生懸命取り組みました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
運動の新しい方法を試しました	たくさんそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
友だちの <u>こと</u> を <u>はげ</u> しました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった
もっと長く運動したいと思いました	とてもそう思った	④	③	②	①	まったくそう思わなかった
運動のやり方をいろいろ考えました	ずっとそうした	④	③	②	①	まったくそうしなかった

これらの問について4件法で質問紙を作成した。単元のうち1回のみのアンケート収集と、単元を通じたアンケート収集を行う。

## 実施状況

これまで、上記協力校3校、またその他4校においてアンケートを収集した。収集内容は単元中1回のみのアンケート収集小学校3校、中学校3校、合計約600枚である。単元を通じたデータ収集では、バスケットボール単元(中学校3クラス分)、ハンドボール単元(中学校2クラス分)、天大中小単元(小学校2クラス分)、ミニテニス単元(小学校1クラス分)、表現運動(小学校1クラス分)、ペースランニング(小学校1クラス分)である。

これらの学校では、1回の授業を対象としたアンケートの実施、または単元を通じたアンケートを実施した。現在、これらのデータの集計段階である。今後は、これらを集計後、1回のアンケート収集分では因子分析の実施し、尺度を構成する。また、単元を通じたアンケート収集分については、単元中の因子得点の変化と単元の進行状況、学習カードの記述とを照らし合わせることで、尺度の信頼性や妥当性を検証する。

今後、さらに継続的アンケート収集を行い、尺度構成を図る。